

3. 鶏の出荷作業状況調査を活用した捕鳥体制の検討

豊後大野家畜保健衛生所

○芦刈美穂・下田洋子・(病鑑)菅正和・松岡恭二

1 はじめに

高病原性鳥インフルエンザの初動防疫対応のため、平時から農場配置や鶏舎構造の調査等の事前調査をおこなっているが、これまでの発生では、農場の出荷作業方法の情報がなかったため、捕鳥・運搬が困難を極めた事例が見受けられている。今回、防疫作業の中で殺処分終了までの時間を大きく左右する工程のひとつである捕鳥作業について、管内養鶏場の中でも特に殺処分の完了までに多くの時間と労力が見込まれる大規模農場の出荷作業状況を調査し、殺処分時の捕鳥体制を検討したので報告する。

2 出荷作業状況調査

調査農場は採卵鶏の A (3 段ケージ 52,000 羽、平飼い 5,000 羽)、B (ウインドレス 7 段ケージ 125,000 羽)、C (ウインドレス 9 段ケージ 100,000 羽)、D (ウインドレス 9 段ケージ 180,000 羽)、肉用鶏の E (平飼い 180,000 羽)。管理者や出荷業者へ出荷羽数、出荷に要する時間、捕鳥者数、出荷前の準備作業、捕鳥時間短縮のための工夫の 5 項目について聞き取り調査を実施し、A、E2 農場については出荷作業に立ち会った。

3 結果

採卵鶏においては、作業者は一度に 5 羽を保持し、1 人 1 時間あたりの捕鳥羽数は採卵鶏の 3 段ケージ鶏舎で 400 羽、平飼い鶏舎では 1,200 羽、ウインドレス鶏舎では 120 羽～167 羽であった。防疫作業従事者（以下、従事者）は一度に 2 羽しか持てないことから、従事者は採卵鶏では 2.5 倍時間がかかると見込まれ、従事者 1 人の 1 時間あたりの捕鳥羽数はそれぞれ 160 羽、480 羽、56～67 羽と想定。24 時間以内に殺処分が完了するために必要な捕鳥作業員数は、A19 人、B124 人、C87 人、D150 人と想定できた。

肉用鶏平飼い鶏舎 E では作業員の 1 人 1 時間あたりの捕鳥羽数は 400 羽であった。作業員の捕鳥速度から、従事者は肉用鶏の捕鳥に 4 倍時間がかかると見込まれたので、従事者 1 人の 1 時間あたりの捕鳥羽数は 100 羽と想定。24 時間以内に殺処分が完了するために必要な捕鳥作業員数は 100 人と想定できた。

出荷前の準備作業の調査では、A 農場の平飼い鶏舎において採卵箱から鶏を追い出す「鳥追いほうき」と防鳥ネットを用いて採卵箱を取り外す作業を省いていた。また、農場独自の工夫として手作りの捕鳥籠専用キャスターを用い省力化を図っていた。

4 まとめ

今回は出荷作業状況調査を行うことで、農場個々の作業情報が得られ、より現実に即した必要人員数と捕鳥体制を立案することができた。今後は、迅速かつ確かな初動防疫対応をおこなうためにできる準備として、他農場でも調査や立ち会いを実施し、農場ごとに防疫作業計画に細やかに改善を加え実際の発生に備えたい。